

まえがき

本書は『大学体育・スポーツ学への招待』で体育学への入門を果たした2年生を念頭においている。大学2年生は難しい時期である。入学直後の緊張感が徐々に薄れ、かといって就職活動や採用試験のイメージも持ちづらく、なんとなく過ごしてしまう危険な時期といえる。ところが、これは間違いである。この時期は、むしろ君たちが大学で研究をスタートさせるための重要な時なのである。大学は教育機関であると同時に研究機関でもあり、君たちも研究機関としての大学の一員である。本書を編集、執筆したわれわれ教員は、体育学・スポーツ科学を研究する仲間として、君たちを本書に招待したいと思う。

本書の特徴は各章に「研究例」と「課題」を配した点である。この「研究例」と「課題」こそが、本書での学びのポイントになる。研究とは問題を解くことではなく、問題を「探す・作る」側に立つことである。したがって、本書は体育・スポーツ・身体をめぐる問題に気づき、自分のテーマを見つけるための入門書となっている。現時点で君たちはまだ問題を解く側にいる。本書を突破したならば、卒業研究からは問題を作る側になる。本書は本格的な研究をスタートさせるための「練習試合」という位置づけになる。本書をもとに、とにかく試合を経験してみよう。

スポーツはもともと遊びであり楽しいものだ。だからこそ、どんなに厳しいトレーニングにも耐えられるし、負けても再び試合をしようという気になる。スポーツは強制ではなく自分の意志で行うからこそ楽しいし、高いレベルに至ることができる。

研究も同じである。研究の第1歩は自分が不思議がること、驚くことである。それは強制ではない。体育やスポーツさらには身体について、何か不思議なこと、わからないこと、変だと思ふことがあれば、それが君たちの研究テーマに育ってゆく。どうすれば不思議がったり驚いたりできるのだろうか。不思議なことやわからないことを見つけるには、どうしたらいいのだろうか。このような問題意識で、「研究例」と「課題」に取り組んでみてほしい。そこにヒントが示されている。自分で何か不思議だと思ったり驚いたりすることがあれば、それを自分の中で大切に育ててほしい。いずれそれらが君たちの中で、卒業研究という形で花開き、孵化していくだろう。本書は練習試合であると同時に、来たるべき卒業研究への道しるべでもある。

体育学・スポーツ科学には、まだまだわからない問題が多い。それら厄介な問題を自分で探して解決するのが卒業研究なのである。研究の世界に入るために、本書で練習試合をしてみよう。

付録として「体育・スポーツ学を学ぶ大学生のためのアカデミック・ライティング」がつけられている。これは研究論文執筆のいわばルールブックのようなものである。最初にすべて覚える必要はない。しかし常に傍らに置いて、研究論文を書く時に、これを見ながら進めて行ってほしい。ルールを守ってこそ、試合（研究）は成立するのである。